



OCU BUSINESS NEWSLETTER

No. 2 • September 2007

目次

●新設科目「プロジェクト・ゼミナール」が始動！	1
●もう1つの新設科目「キャリアデザイン論」とは？	2
●現代GPプログラムについて	2
●オープンキャンパス速報	3
●国際学術研究会が開催されました	4
●ル・アール大学への学生派遣	4
●2回生必読！—先輩が語る「専門ゼミナールの選び方」	6
●卒業のための単位は大丈夫ですか？—履修に関するQ&A	6
●学部長より	7
●プロジェクト・ゼミナール募集概要	8

新設科目「プロジェクト・ゼミナール」が始動！

9月28日から10月3日にゼミ生を募集します

本年度の後期より、新設科目「プロジェクト・ゼミナール」が始動します。9月28日から10月3日の期間にゼミを募集しますが、通常の履修登録とは異なりますので十分に注意してください。

募集概要については、ニューズレター最終ページの「プロジェクト・ゼミナール募集概要」をご覧ください。

「プロジェクト・ゼミナール」とは何か？

担当者の1人である小林哲准教授に、プロジェクト・ゼミナールについて尋ねてみました。

—プロジェクト・ゼミナールでは、どのような活動をする予定ですか。

今回、私のプロジェクト・ゼミナールは、エースコック(株)との共同プロジェクトで、テーマは「はるさめヌードルの新製品企画提案」をおこないます。ゼミナールでは、エースコック(株)の戦略を理解した後、競合製品分析や消費者ニーズ調査などをふまえて、新製品企画提案を行う予定です。

—これまでも既存のテーマ・ゼミナールで、同じような取り組みをしたと聞いていますが、具体的に教えてください。

過去には、四條畷商店街組合とりそな銀行と共同で

「四條畷商店街活性化プロジェクト」を行いました。実際に四條畷商店街に出向き、店主や来店者にインタビュー調査を行い、その結果をふまえて、四條畷商店街の皆様に活性化策を提案しました。

—どのような学生を対象としているのでしょうか。

プロジェクト・ゼミナールは、同じく新設科目である「キャリアデザイン論」(次ページを参照)の実践・応用の場として位置づけられています。したがって、本来は「キャリアデザイン論」を履修した人が望ましいのですが、現時点では、2回生以上でプロジェクトに興味があれば誰でも履修できます(ただし、人数制限有り)。

—通常のゼミとはだいぶ違うようですが、何か心構えなど学生に対してアドバイスなどあればお願いします。

プロジェクト・ゼミナールでは、実際に企業が現在抱える課題を取り上げ議論します。したがって、そう簡単に答えが出るわけではありません。皆さんが大学で学んだ知識と日頃の問題意識、そしてこれまで培った感性をすべて利用し、課題を解決しようという情熱が何より大切だと思います。

—ありがとうございました。



文部科学省の現代GPプログラムに採択！

この「プロジェクト・ゼミナール」は、商学部が取

り組んでいるインタラクティブ型キャリア教育の一環として開講されるものです。商学部のこのような取り組みは、今年度の文部科学省「現代 GP プログラム」として選定されました。この現代 GP については、コラム記事を参照してください。

もう 1 つの新設科目「キャリアデザイン論」とは？

新設科目は「プロジェクト・ゼミナール」だけではありません。今年度後期より「キャリアデザイン論」という科目も新設され、履修できるようになりました。

「キャリアデザイン論」とは？

キャリアデザイン論を担当する中瀬哲史教授に、講義の概要について聞いてみました。



ー「キャリアデザイン論」は、どのような形式でおこなわれる講義ですか？

簡単に言うと、ワークショップ形式を取り入れています。受講生は複数のチームに分かれ、チーム内でリーダーをはじめメンバーがそれぞれの役割を果た

しながら、要求された「ミッション」を達成していきます。

ー企業の第一線で活躍されている方々が講師として教壇に立つとのことですが。

企業の第一線でご活躍されている 4 名の方にそれぞれ講義を 3 回分ご担当いただきます。その講義 3 回分のうち、第 1 回目にその各講師の職場で実際にみられた経営課題と解決までの道筋をご説明いただき、各講師からミッションを受講生に提示いただきます。第 2 回目には、各グループにおいて提示されたミッションに対して具体的な「企画書」という形で「解決」を試みていただきます。第 3 回目には、作成した「企画書」を全員の前でプレゼンテーションし、各講師に評価していただきます。

ー受講生にはこの講義を通じて、何を学んで欲しいと思われるのでしょうか。

今回提供する講義では、キャリアデザインをどのように考えれば良いのか、という「方法」ではなく、キャリアデザインをするのに不可欠な「思考リテラシー」という能力の獲得を目指しています。ここでいう「思考リテラシー」とは、課題を発見し、分析し、解決する能力と定義しています。上でお話した各講師からの、

過去の経営課題とその解決策を参考として、提示されたミッションを「企画書」という形で解決を試み、その解決策が企業現場においてどの程度「現実的」なのかを認識していただくことで、「思考リテラシー」を獲得してもらいたいのです。

ー何か履修するにあたって注意事項などありますか？

今回の講義はワークショップ形式を採用しますので、受講制限をします。その際、この講義受講者には、次年度のプロジェクト・ゼミナールを受講し、「思考リテラシー」を一層発展させることが期待されています。そのため、回生の若い商学部生の受講を優先しますので、受講申請の際、ご注意ください。

ーありがとうございました。

現代 GP プログラムについて

GP (Good Practice) とは、文部科学省が「優れた取組」を支援するために全国の大学から公募しているプログラムです。今回商学部が選定されたのは、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代 GP) というもので、これは社会的要請の強い政策課題に対応したテーマに関する優れた教育プロジェクトを支援するプログラムです。

商学部はこのうち「実践的総合キャリア教育の推進」というカテゴリのプログラムとして申請し、全申請 153 件の中から「優れた取組」として商学部の取り組みが採択されました。



取組担当者の加藤司教授は、「本取組では、学部の専門教育の一環として、学生がビジネスの現場と向き合い、そこで課題を発見し、解決することを体験する新たなインタラクティブ型キャリア教育プログラムを導入します。またこれを円滑に進めるために BRC (ビジネス・リサーチ・センター) を設立し、こうした仕組みづくりによって、本学部が掲げてきた『課題発見能力と解決能力を身につけた個性と社会性あふれる人材を育成する』という教育目標を達成したい」と抱負を語っています。

オープンキャンパス速報

コンセプトは「商学部で何を学ぶのか」

8月7日(火)と8日(水)の2日間にわたりオープンキャンパスが開催され、商学部は学情センター10階を会場として、岡野ゼミナールの学生さん達が中心となって説明をおこないました。同時にブログ(<http://campuslife07ocu.blog110.fc2.com/>)も開設するなど、大変ユニークな企画が盛りだくさんのオープンキャンパスとなりました。商学部会場を訪れた人数は親御さんを含め、2日間でのべ940人にのぼりました。また、このうち説明会場で商学部企画に参加した高校生は、2日間で261名と大盛況でした。

今年のオープンキャンパスでは、「市大商学部で何を学ぶのか」を基本コンセプトに、①商学部と経済学部の違い、②グループワーク「外国人に売れる商品とは」、③個別質問会、といった内容で実施しました。

1日目の様子をレポート!

総合司会は上田遙さん(1部4回生)。最初に、オープニングビデオが上映され、続いて2つの会場に分かれて、2つの企画を同時並行でおこないました。

第1会場では、まず吉村光平君(1部4回生)が「商学部と経済学部の違い」を説明し、続いて先輩へのインタビューが披露されました。このインタビューと最初のオープニングビデオを取りまとめてくれたのが、森垣大輔君(1部4回生)です。



第1会場で説明に聞き入る高校生たち

第2会場では、今回の目玉企画「グループワーク」をおこないました。担当の大野鮎子さん、大倉乃梨子さん、田村美希さん(いずれも1部4回生)たち在校

生と一緒に製品開発のプロセスを擬似的に体験しながら、高校生に商学部で何を学ぶのかを実感してもらいました。

第2会場のグループワークがひととおり作業を終えると、第1会場の高校生と会場を交代し、すべての高校生にグループワークの体験をしてもらいました。



第2会場でのグループワークの様子

最後に、個別に質問を聞く場が設けられ、参加した高校生から質問がだされると熱心に回答をおこなっていました。商学部のオープンキャンパス企画は、大盛況のうちに1日目を終了しました。

オープンキャンパス参加者の声

全体のとりまとめをしてくれた吉村君は、「真剣に聞いてくれている表情を直接見ることができ、またアンケートでは楽しかったとか、志望度が上がったなどのコメントが数多くあったので、本当にやってよかったと思っています」と語ってくれました。

広島から参加した高校生からも「特に学生さんが企画されていた、グループワークはすごく実践的で楽しかったです」とのコメントが寄せられました。

オープンキャンパスの担当者を募集!

グループワークを担当した大倉さんが「今回のオープンキャンパスというイベントは、私たちにとっても有意義なものとなった」と語ってくれたように、担当した学生にとっても良い経験となっています。

商学部では、来年度も学生企画を中心にしてオープンキャンパスを実施したいと考えています。このような企画に興味がある在校生の皆さんも、ぜひ参加してみてはいかがでしょうか。興味のある人は、掲示板にて担当者募集をおこないますので、注意しておいてください。

国際学術研究会が開催されました

ミシガン大学アヌピンディ准教授が来校！

6月27日に、本学学術情報総合センター1階の文化交流室において、経営学研究科重点研究国際学術研究会として、ラヴィ・アヌピンディ氏（ミシガン大学経営大学院准教授）をお招きし、「サプライチェーンイノベーション—アメリカとインドの事例から—」と題する講演を開催しました。



ミシガン大学准教授・アヌピンディ氏

イノベーションにおいてサプライチェーンが果たす役割 —アメリカの事例—

ラヴィ氏による講演は、大きく二つのテーマによってなされました。一つは、イノベーションにおけるサプライチェーンの果たす役割に関してでした。

同氏は現在の世界の経済環境を、グローバル化、リスクの増大、多様性の広がり、情報技術の急速な普及という視点から捉え、イノベーションの重要性とそこに果たすべきサプライチェーンの役割とを、事例を元に講演されました。すなわち、上記のような世界経済の状況においては、製品開発に関する意思決定をどれだけ市場導入というゴールに近い段階でおこなえるかが効率的なイノベーションをおこなううえで重要課題となっているのであり、それを可能にする仕組みとしてサプライチェーンの役割を重視されていました。

サプライチェーンの3つの論点

サプライチェーンを論じるうえでの重要な論点として、サプライチェーンデザイン、販売・運営計画、サプライチェーンコーディネーション、の3つをあげ、それぞれの領域にかんして、具体的事例を紹介しながら論じられました。特に、3つ目のコーディネーショ

ンに関して、“Launch Model”という独創的なモデルを提示されました。



講演をおこなうラヴィ・アヌピンディ氏

小麦市場においてサプライチェーンが果たす役割 —インドの事例—

二つ目の内容は、インドの小麦市場においてサプライチェーンが果たす役割についてでした。インドにおいて小麦価格が安定せず、また、その情報を農民が手に入れられないという状況にありました。その状況にたいして、ITCグループが各村にコンピュータを導入し、そこから市場動向を簡単に知ることができる仕組みを作ることによって、小麦市場が整備され、こうしたサプライチェーンが形成されることによって、農村だけではなく、都市部においても有益な経済効果が発揮されたというものでした。



熱心に講演を聞き入る参加者

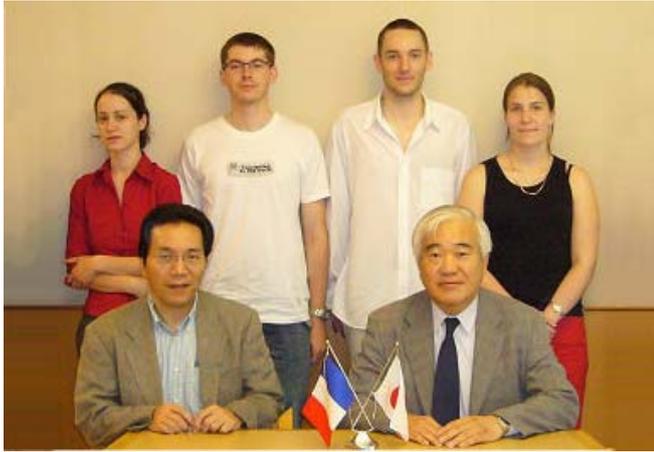
従来からあるサプライチェーンに関する議論のうえに、あらたなサプライチェーンの役割や今後の方向性など、きわめて示唆に富む有意義な講演でありました。

報告：牧良明（博士後期課程3年）

ル・アーブル大学への学生派遣

ル・アーブル大学から派遣学生が来校

ル・アーブル大学と商学部との学生交流は1990年より始まり、今年で17年目を迎えます。毎年4名ほどの学生を派遣し、現地で語学研修を受けたり、さまざまな行事に参加したりして1ヶ月を過ごします。



角野副学長（手前右）を表敬訪問しました

今年のル・アーブル大学からの派遣学生は、男子学生2名、女子学生が2名の合計4名で、6月から7月にかけて滞在しました。剣道や合気道を通じて日本の伝統や歴史・文化に興味をもった学生、あるいはゲームや日本の音楽・アイドルが好きで日本に興味をもった学生など、それぞれ来日した理由もさまざまでした。

本学での日本語研修以外に、商学部の学生と一緒に京都や奈良などの寺院、大阪城、USJ、京セラドームでの野球観戦、今昔くらしの博物館、防災センター（地震体験）などを訪れたほか、ゲームセンター、コスプレのイベントなど日本のサブカルチャーにもふれ、さらにはタコ焼きパーティーをするなど、さまざまな体験をしました。

11月にル・アーブル大学へ出発

商学部からの派遣学生は11月下旬に出発し、現地に1ヶ月ほど滞在する予定となっています。派遣される学生は、嶋中拓巳君（1部2回生）、田村直子さん（1部2回生）、青木麻里さん（2部4回生）、西村卓君（1部4回生）の計4名です。

派遣学生の青木さんに話をうかがいました。「向こうに行ったら、たくさんの学生に会っていろいろ聞きたいですね。フランス語はうまくありませんが、しゃべれなくても伝えることはできると思うので、コミュニ

ケーションに不安はありません。フランス人の友達を作って、価値観や世界観などを聞きたいです」とのこと。また大学以外に「世界遺産のモン・サン・ミッシェルや、教会や古い建物などを見に行きたいです。市場やスーパーなど生活がかいま見られそうな場所や、魚介類を食べることのできるレストランなどにも行ってみたいですね」と抱負を語ってくれました。

世界遺産の街ル・アーブルへ行こう！

既に本年度の派遣学生の選抜は終わっていますが、興味のある人は、来年度の派遣学生に応募してみてください。毎年5月頃に募集があります。



ル・アーブルの近代的な街並み

ル・アーブル（Le Havre）のミニ知識

フランスの印象派画家モネが描いた「印象・日の出」という絵があります。この絵は「印象派」という名の由来となったことでも有名ですが、この絵のモチーフになっているのがル・アーブル港です。そのため、ル・アーブルはフランス印象派のルーツとして言われることもあります。

ル・アーブルは、フランスを代表する港町ですが、第二次世界大戦の末期に爆撃によって壊滅してしまいました。戦後、20世紀を代表する建築家のオーギュスト・ペレの指揮のもとで復興計画がたてられ、鉄筋コンクリート造りの建物を中心とする近代的な街並みの街として再建されました。この街並みは、ユネスコの世界遺産としても登録されています。

2 回生必読！—先輩が語る「専門ゼミナールの選び方」

3 回生から専門ゼミナールが始まります。2 回生の学生さんは、専門ゼミを履修するために 11 月にゼミの登録をおこないます。10 月下旬より研究室訪問が始まり、ゼミによっては課題が出されたり、面接をしたりします。これらを経て、最終的にゼミを決定します。

各ゼミでどのようなことを学習するのかは、配布される専門ゼミナールの募集要項に詳しく書かれていますので、そちらを参照していただくことにして、現在 1 年生に在籍している学生から寄せられた質問をもとに、専門ゼミナールに在籍している先輩たちや卒業生から、これからゼミを履修しようという後輩達へのアドバイスを本音で語ってもらいました。

Q 1. 専門ゼミでは、実際どのようなことをしているのでしょうか？

- ・ゼミによってさまざまですね。専門書を選んで分担を決め、その内容について発表するというのが普通だと思います。
- ・三商大ゼミ（注 1）のため、みんなで色々と調べたり、プレゼンテーションの練習をしたりしました。
- ・『CORE』（注 2）という雑誌に投稿するため、みんなで研究したことをまとめたりしました。優秀論文は表彰されるので、気合いを入れてます。
- ・私が所属したゼミでは、海外の大学に行って研究発表をしたりしました。

Q 2. 自分の向いている（と思われる）分野をどのように見つけたのか？

- ・会計士を志望していたので、会計のゼミを選びました。でも会計以外のゼミでも会計士に受かっている人もいますので、あまり関係ないかも。
- ・正直言うと何でもよかったのですが、今の先生が優しそうだったので、それで決めました。
- ・漠然と今のゼミの分野に興味があって決めました。

Q 3. 最終的に何が決め手になってゼミを選んだのか？

- ・はっきり言って先生の人柄です。ゼミ募集の時に研究室訪問で話を聞いて、今の先生に決めました。
- ・当初志望していたゼミが 1 次募集で落とされ、2 次募集していたのが今の先生だけだったというのが本当の理由です。でも入って良かったと思ってます。
- ・仲の良い友達が誘ってきたので、あまり考えずに決

めました。おかげでゼミを楽しく過ごせて、勉強にも身が入ったように思います。

- ・海外に行くのが好きで、過去にゼミで海外大学での発表をしたというのを聞いたので、興味があって選びました。

Q 4. 専門ゼミナールが始まる前に、何か対策のようなものをしていましたか？

- ・何もしてませんでした。たぶんみんなそう。
- ・もともと会計士志望で会計の勉強をしていたので、それが役に立っているといえれば立っているように思います。
- ・パソコンを使って発表させると書いてあったので、多少パソコンの勉強をしました。ワープロとかパワーポイントとか。

Q 5. ゼミの授業以外での活動はどうなっているか？

- ・私のところでは特にないですね。
- ・三商大ゼミのため、直前では土曜日にサブゼミを開いて準備にあたりました。あと発表のため、東京の一橋大学までみんなで行きました。
- ・学祭で、模擬店を出店しました。原価計算とか損益分岐点分析とかをちゃんとすると、結構もうかるので楽しいです。
- ・企業見学に連れて行ってもらいました。
- ・私のゼミでは、飲み会をよくやります。
- ・ゼミ合宿で、海外に行きました。
- ・全員ではありませんでしたが、ゼミ生みんなでオックスフォード大学の語学研修に参加しました。

Q 6. その他何か後輩にアドバイスがあればお願いします。

- ・三商大とか『CORE』への投稿とかの準備が大変でしたが、終わってみると大きな達成感があって良かったです。積極的にゼミに関わるのがいいと思います。
- ・就職活動中に結構ゼミのこととか卒論のこととかを聞かれるので、ゼミには絶対入った方がいいと思う。
- ・熱意があれば絶対に伝わると思うので、そのゼミに入りたければ、何が何でも入るんだという意識で臨んでください。

（注）

1. 大阪市大、一橋大、神戸大の 3 大学で持ち回りでおこなっている学生主体の討論会
2. 商学部生の投稿で構成されている学内雑誌のこと。

**卒業のための単位は大丈夫ですか？
ー履修に関するQ&A**

商学部では毎年、履修の仕方を間違えたり、勘違いしていたりしたため、卒業できなくなってしまうというケースが発生しています。授業をサボっている不真面目な学生だけでなく、皮肉にも、意欲的にさまざまな科目を履修している真面目な学生の場合もあつたりします。そこで学生達が見落としがちな履修上の注意点について、商学部の教務に詳しい鈴木洋太郎教授にQ&A形式で回答してもらいました。

Q1. 仮進級の条件について。特に語学を落としてしまった場合はどうなるのでしょうか？

標準取得単位（54単位）が進級の条件になります。1部の場合、不足単位が4単位以下であれば、専門科目だろうと語学だろうと関係なく仮進級できます。ただしプロゼミだけは落とすと仮進級ができません。2部の場合、語学の場合は1単位以下、専門基礎科目の場合は2単位以下であれば、仮進級できます。

Q2. 全学共通教育ばかりたくさんとってしまったのですが、卒業単位への振替は可能ですか。また、振替可能な単位の上限は？

1部・2部ともに、6単位までは専門科目として振り替えることができます。ただし健康スポーツ科学実習科目は除きます。この上限を読み間違えて卒業できない学生が毎年若干名いますので、注意してください。

Q3. テーマゼミ（1部のみ）の履修はどのように手続きするのでしょうか。またゼミの履修なしでも卒業可能ですか？

実はテーマゼミは休止となり、その代わりに、今年度の後期から、プロジェクトゼミというものに衣替えをします（プロジェクトゼミについては、冒頭の記事を参照してください）。テーマゼミにしる、プロジェクトゼミにしる、履修していなくても卒業はできますが、大変有意義なので履修をお勧めします。

Q4. 専門ゼミと卒業論文は必修ではなく選択科目になっていますが、実際に卒論なしで卒業した人は過去にいますか？

確かに選択科目となっているので、書かずに卒業する学生はいます。でも、よほどの理由がない限りは、ちゃんと卒論を書いて卒業してもらいたいと思っています。注意しなければならないのは、専門ゼミ4と卒

業論文を履修している場合、卒論を書かないと専門ゼミ4の単位も自動的に無効となり、合計8単位が失われてしまうことです。この場合、必要単位数が足りなくなって卒業できなくなってしまうこともあり得ますので、最後までしっかりと卒論を仕上げるようにしてください。

Q5. 他の学部の授業も受けられるようですが、どこに履修届けを出せばよいのでしょうか。その際に、履修条件などはありますか。また、他学部のシラバス・科目履修案内はもらうことができますか？

他学部の講義でも、商学部事務室で手続きができます。シラバス（科目履修案内）は、商学部の事務室に備え付けてありますので閲覧できますが、もらうことはできません。他学部生が受講可能かどうかは、当該学部のシラバス等を参考にしてください。履修はできても内容的に難しい科目もたくさんありますので、シラバスを良く読んで各自で判断してください。

Q6. GPA（1部生だけに該当）の対象は専門科目だけですか。それとも全学共通教育科目も含めるのでしょうか？

卒業判定に関係するのは、商学部および他学部の「専門科目」が対象となります。ただし専門ゼミナール3・4と卒業論文は対象外です。期末試験の欠席は「不可」と同様に計算され、GPAの値が下がってしまいますので、履修したらしっかりと勉強をして、良い評価を取れるようにがんばってください。

Q7. 履修制限（1部生だけに該当）について。制限される科目数および、単位を落としたときの制限科目数は変わるのでしょうか？

各学期ごとに登録できる科目数に制限があります。登録できる科目数は、以下のとおりです。

	1年	2年	3年	4年
前期	10科目	11科目	12科目	制限なし
後期	11科目	12科目	12科目	

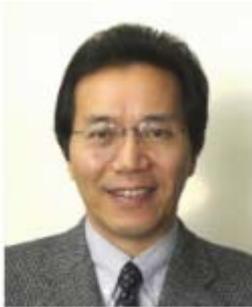
なお、各学期の上限に加え、それまで不合格となった科目数を追加して履修することができます。

Q8. その他、注意点などありましたらアドバイスをお願いします。

在学年限（在籍できる最長期間）を間違える学生が最近多くなっています。1～2年生で最長4年間、3～4年生で最長4年間、合わせて8年間在籍できるという意味です。3年生に進級できないまま放置しますと、4年間で年限満了となってしまいますので、注意してください。

学部長より

自分を向上させるには
大学での活動への積極的な参画から



商学部長 太田雅晴

最近、約 30 年ぶりに大学時代の友人に会う機会がありました。彼は、某企業に就職の後、危機にあった零細企業に転職し、その企業をテレビ番組でも紹介されるような中堅企業にまで育てあげ、地域の顔にまでなっている人です。

そんな彼との懇談の中で、学生の就職意識に話が及んだとき、次のようなことが話題となりました。

最近、社会人を含めて多くの人達が一樣に、自分にとって勤務先の会社においてどんな利点があるのかとか、りっぱな社長さんでも商工会議所などの公的団体に入ったらどんなメリットがあるのかなどと聞かれることが多くなった。組織や団体が自分に何かしてくれるのではないか、誰かが何かしてくれるのではないかと、思っている人が多いのではないかと主張します。大学、会社、様々な組織は、ある面で冷酷な戦場であり、自分がその組織に対して何をすべきか、何をすることができるか、など積極的な意志が必要であり、それが無い限り、自分自身の人間性の向上はもとより組織の活性化、それを通じての自分自身へのリターンもあり得ないのではないかと、いうものです。

皆さんは、この言葉をどのように捉えるのでしょうか。市大・商学部は教職員のためにあるものでなく学生のためにあります。その商学部が活性化すれば学生諸君は現在そして将来において満ち足りた人生を送ることができるでしょう。そのためには、そこに参画する教員、職員だけでなく、学生諸君の積極的な参画があらゆる面で必要です。幸いにして商学部生が主導するオープンキャンパスプロジェクトは、全学の模範となりつつあります。そして今回の現代GPプロジェクトは教育活動において学生の参画を前提とするものです。

これを機会に、学生、教職員、さらには卒業生が一丸となって市大・商学部を、社会の模範、さらに大げさに言えば砂状化しつつある日本の活性化を誘導するような組織にしようではありませんか。

このニューズレターはそんな組織活性化のための情報共有と学生、教員、職員の意志表明の場になればとの思いで発行されるもので、皆さんの積極的な参画を期待しております。

プロジェクト・ゼミナール募集概要

冒頭の記事にもありましたように、本年度よりプロジェクト・ゼミナールが始まります。

本年度は3つのテーマでプロジェクト・ゼミナールを募集します。テーマと担当者は、以下のとおりです。

テーマ	担当者
ファッションとファッションビジネス	富澤修身教授
あべのペルタの活性化を企画する!	加藤司教授
はるさめヌードルの新製品企画提案	小林哲准教授

対象学年：1部2年生以上（2年生・3年生を優先）

募集人員：約15名

募集手続：履修希望者は、所定の履修手続に従って受講登録すると共に、担当者宛（掲示板を見てください）に直接メールをして申し込んでください。

申込期間：9月28日～10月3日正午まで。

注意事項：通常の履修登録とは手続が異なります。また開講曜日・時限もゼミごとに異なりますので、十分注意してください。

皆さんが商学部で学んでいる専門科目が実業の世界でどのように活かされるか、を具体的に実感できるよい機会でもありますので、上記の要領に従って積極的に応募してください。

各ゼミで募集要領が若干異なりますので、必ず掲示板に張り出されるプロジェクト・ゼミナール募集の掲示を確認してください。

OCU BUSINESS NEWSLETTER

No.2・September 2007

発行：大阪市立大学大学院経営学研究科・商学部

住所：〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

編集責任：坂上学（広報ホームページ委員）

編集協力：高木修一（1部1回生）、青木麻里（2部4回生）、牧良明（博士後期3回生）

※編集に協力してくれる学生を募集しています。お問い合わせは坂上 (sakagami@bus.osaka-cu.ac.jp) まで。